

1. 廃棄物分科会 (10/20~22)

(1) 除染活動から生じた放射性廃棄物の管理

議題

- 除染活動から生じた除去土壌等搬出後の仮置場の安全評価
(特に、対象、被ばく経路、用いる計算方法や数値、結果の基準値との比較)
- 県環境創造センター フェーズ 2 報告書への上記結果の記載内容
(特に、参照し適用してきた IAEA 安全文書との整合性の明記)
- 上記報告書を要約した一般向けの資料の作成
(今後県が実施の有無を検討)

今後の計画

- フェーズ 2 報告書の完成公開までの IAEA の継続的なフォロー

2. モニタリング分科会 (10/15)

(1) 森林内の放射性物質などの放射線モニタリング

議題

- 県内で採取及び栽培されたきのこの放射性セシウム濃度モニタリング
(野生及び栽培等の方法により異なる方法、対象、基準値、これまでの基準値超過等)
(適用される基準値や基づく法令等)
- 上記きのこの出荷及び摂取制限等
(品目や自治体毎に異なる事及びその背景や理由)
(適用される基準値や基づく法令等)
- 参考となる海外事例紹介
(チェルノブイリ事故により影響を受けたウクライナ及びベラルーシでの事例)
(特に、一般の方々に対する理解醸成の方法や採取したきのこの自家消費の考え)

今後の計画

- 上記出荷及び摂取制限の解除に向けたモニタリングへの IAEA の継続的なフォロー
(県が検討している新たな測定方法等へのフォロー含む)
- 成果の情報発信に係る方法検討
(例えば、きのこ採取者及び生産者等を対象としたパンフレット作成)

3. 情報発信（10/11,18～19）

(1) 県内で捕獲された野生鳥獣肉中の放射性セシウム濃度モニタリング結果の効果的な発信方法検討 議題

- 県 website における従来の発信の問題点提示及びそれに対する IAEA との意見交換
（特に、表で数値のみが示され分かりづらく、また地域や獣種毎に図を用いた表現がされていない）
（また、利用者が興味を持つと思われる震災後 10 年間の濃度の推移等も示されていない）

今後の計画

- 県による適宜改善
- その結果へのフィードバックによる IAEA の継続的なフォロー

(2) きのこと及び山菜中の放射性セシウム濃度モニタリング結果や出荷制限等の効果的な発信方法検討 議題

- 従来の発信の問題点提示及びそれに対する IAEA との意見交換
（県及び市町村による website、パンフレット、広報誌等の方法及びその内容）
（様々な対象者に広く発信していると評価、しかしより効果的な発信のため情報の取捨選択が必要）

今後の計画

- 現状採用されていない広報素材の作成に係る IAEA のフォロー
（きのこ採取者及び生産者等を対象としたパンフレット作成）

(3) 県 Website「ふくしま復興ステーション」の構成内容及び運用方法検討

議題

- IT ツールを用いた上記 website へのアクセス解析
（例えば、アクセス者、その数、頻度、閲覧時間、より閲覧された/されない内容）
- その結果に基づく、今後実施する必要がある改善内容の洗い出し
（定期的な、最新の情報への内容更新）
（閲覧者のインタラクティブな活動を促すような動画や定期購読の機能追加）
（閲覧者が必要とする情報への探しやすさの改善）

今後の計画

- 上記アクセス解析の定期的な実施及び IAEA の継続的なフォロー